

令和4年度事業報告

1. シルバー人材センター事業の概要

大阪府シルバー人材センター協議会（以下「大シ協」という。）及び各拠点のシルバー人材センター（以下「センター」という。）は、「自主・自立、共働・共助」の理念のもとに連携協力し、高齢者の就業機会の確保・提供など組織的かつ積極的な社会参加の促進を図り、地域社会の中核となり市民生活をサポートする広範な事業を展開してきました。

しかし、長引く新型コロナウイルス感染症の影響（以下「コロナ禍」という。）や、ウクライナ情勢に起因する物価上昇による家計や企業への影響、供給面での制約等により、雇用情勢、社会経済活動は大きな影響を受け、シルバー人材センター事業（以下「シルバー事業」という。）においても、昨年度に引き続き広範囲にわたり受注の中止や縮小を余儀なくされ、各センターにおける事業実績に影響してきました。

また、令和5年10月に導入予定の消費税の適格請求書等保存方式（以下「インボイス制度」という。）について、令和3年5月にインボイス制度検討委員会を設置し、シルバー事業に適した措置が講じられるよう行政に働きかけるなどの運動を展開しつつ、適切な対応が図れるよう検討を進め、準備が進んでいるところです。

シルバー事業を推進するために必要な補助金等の確保については、令和4年6月23日開催の全国シルバー人材センター事業協会（以下「全シ協」という。）定時総会において決議された「地域社会に貢献するシルバー人材センターの決意と支援の要望」を令和4年7月に大阪労働局長ならびに大阪府知事に提出し、強く要請しました。同時にインボイス制度導入に対して、「シルバー事業の安定的な事業運営が可能となる措置」についても要望しました。

シルバー事業の運営の基本である「安全・適正就業」を組織目標として掲げ、健康管理や事故防止対策による安全就業と法令遵守による適正就業の実現をめざして取り組みました。安全就業については、事故件数が前年度と比較し増加しており、前年度はコロナ禍により開催できなかった「安全就業大会」「安全・適正就業推進員会議」を開催し、「事故ゼロ」をめざし意識の向上を図りました。

シルバー事業最重点課題と位置づけられている「就業機会の確保・会員の拡大」については、会員数が令和元年よりコロナ禍の影響が大きく、大幅な減少が続いていましたが、令和4年度は小幅なものとなりました。今後も厳しい社会経済状況が続くことが予想されますが、大シ協及びセンター間での更なる連携を図りつつ、高齢者の受け皿としての機能を十分に果たし、「社会の支え手」を実践できるよう、それぞれの役割と特性に応じたシルバー事業をより効果的かつ効率的に運営していく必要があります。

会員数及び契約金額の年度別事業実績は、次表のとおりです。

年 度 別 事 業 実 績

年 度 別	会員数 (人)	対前年度比 (%)	契約金額 (千円)	対前年度比 (%)
平成 29 年度	50,084	△0.4	21,449,048	0.7
平成 30 年度	49,726	△0.7	21,381,154	△0.3
令和元年度	49,516	△0.4	21,699,025	1.5
令和 2 年度	47,241	△4.6	20,788,567	△4.2
令和 3 年度	44,781	△5.2	20,539,982	△1.2
令和 4 年度	44,626	△0.3	20,673,156	0.6

2. 会員及び就業機会拡大の推進

PDC Aサイクル管理により事業の進捗状況を確認し推進しており、会員数は、コロナ禍以降大幅な減少が続いていましたが、令和5年3月末現在44,626人となり、前年度から155人減少、率にして0.3%減と、小幅なものとなりました。

内訳は、男性会員数が304人減の29,283人、女性会員数が149人増の15,343人となりました。高齢者人口の男女割合等からみて拡大の余地が大きい女性会員を確保する取り組みを進めた成果が表れ始めてきたところです。また、会員の高齢化が進んでいることから今後シルバー事業を継続していくためには、60歳代の新規入会者の掘り起こしが重要となってきます。

令和4年度は会員の就業ニーズや知識・技能を把握しつつ、地域の新たな就業の場の確保に努めてきており、コロナ禍の影響も減少しつつあったため、受注件数は前年度と比較して1.4%、1,678件の減少と小幅なものとなりました。また、契約金額については最低賃金の大幅な引き上げの影響により0.6%、133,174千円の増加となりました。

3. 安全・適正就業の推進

会員の安全・適正就業は、事業遂行の基幹をなすものであり、組織を挙げて安全対策を第一におき、引き続き一層強力な取組みを図らなければなりません。

令和4年7月には、「安全就業大会」をホテルアウリーナ大阪において開催し、「安全就業の取り組みについて」大阪市センターのコーディネートにより、池田市、門真市、柏原市、和泉市の各センターのパネルディスカッションを行っていただきました。令和5年2月には「安全・適正就業推進員会議」をホテルアウリーナ大阪において開催し、大阪労働局から「安全適正就業等について」講演をいただきました。

また、就業現場の安全パトロールについても実施し、令和4年度の就業中・途上の事故は、合計で248件と前年度より4件減少しましたが、死亡事故が1件発生しており、引き続き事故ゼロをめざした“安全就業の徹底”を図っていく必要があります。

派遣事業における労災発生状況については、令和4年度の勤務中事故は20件、通勤途上の事故が6件の26件となりました。前年度と比較して勤務中・通勤途上の事故ともに2件増加となり、労災事故全体でも前年度より4件増加しました。引き続き一層の安全対策を講じる必要があります。

一方、適正就業については、会員の就業に関して発注者の指揮・命令が生じる等の場合は、労働者派遣事業及び有料職業紹介事業により取り扱うよう各センターに対して要請を行うとともに、適正就業ガイドラインに沿った業務運営が確実に行われるよう、10センターに対し定期指導を実施しました。

4. 普及啓発事業の推進

シルバー事業の社会的意義や活動内容についての理解を広めるため、大阪労働局及びハローワークへの協力要請や、パンフレット作成による普及啓発活動を行いました。

令和4年11月に「経験交流大会」をホテルアウィーナ大阪において開催し、青森市、牛久市、土浦市の各センターから「インボイス制度の取り組みについて」をWebにて事例発表をいただき、滋賀県シルバー人材センター連合会からは「シルバー人材センターの活性化を図るためには」と題し、事例発表と意見交換を行っていただきました。

また、大阪労働局、ハローワーク、大阪府シニア就業促進センター等が主催する「就職面接会・相談会」（計5回開催）に参加し、センター入会希望者等に対して相談を実施しました。

5. 福祉・家事援助サービス事業の推進

福祉・家事援助サービス事業は、公益目的及び地域貢献事業として、健康で働く意欲のある高齢者が介護や家事援助を必要とする高齢者を支えていくことに意義があり、地域社会に密着したシルバー事業に最もふさわしい事業です。

令和4年度の福祉・家事援助サービスおよび介護保険事業の受注件数は、前年度と比較して7.2%減の7,413件、就業延人員は同4.4%減の212,601人日、契約金額は同1.9%減の604,086千円と、コロナ禍の影響により昨年に引き続き減少となりました。

6. 高齢者活用・現役世代雇用サポート事業及び高齢者活躍人材確保育成事業の推進

高齢者活用・現役世代雇用サポート事業は、センターが人手不足分野・現役世代を支える分野で高齢者に就業する機会を提供し、①高齢者の生活の安定、生きがいの向上、健康の維持・増進、②企業の人手不足の解消、③地域社会の維持・発展等を推進する事業として実施され、効果的に活用されました。

また、高齢者活躍人材確保育成事業については、前年度事業実績もふまえ、マスメディアやインターネットを活用したセンターの周知・広報に取り組み、積極的に新規会員の募集を実施してきました。特に、必ずしも働くことに意欲的でない高齢者も多くみられることや、地域には未だ高齢者の活用に積極的でない企業も散見されることから、技能講習や就業体験、会員拡大セミナー、企業セミナー等を通じて、高齢者、企業双方の理解を深めることによりセンターにおける高齢者の一層の活躍を促進する事業として取り組んできました。

技能講習および就業体験については、各センターにおいて効果的かつ実効ある講習科目等の設定などのコンセンサスを得ながら、事業の推進を図ってきました。

技能講習受講・就業体験後には登録会員として就業をめざすことを基本に、各センターの要望等も勘案し「クリーンスタッフ」「介護送迎車運転」「放課後児童クラブ補助員」等を中心に実施し、技能講習は10回、就業体験については1回開催し、入会者数は17名となりました。一方、周知・広報・セミナーによる入会者数は341名で、最終的に技能講習等による入会者数と合わせて358名となり、令和4年度本事業の目標数255名を大きく上回りました。

7. シルバー派遣事業及び有料職業紹介事業の推進

シルバー派遣事業について、受注件数は前年度比4.2%増の5,330件、契約金額は前年度比2.3%増の3,433,222千円、就業延人員は前年度比0.1%増の636,029人となりました。

今後も少子高齢化による労働力人口が減少するなか、多くの業種で人手不足の状況となることが予想され、シルバー派遣事業の着実な拡大により、高齢者が当該分野の担い手として活躍することが期待できます。

また、有料職業紹介事業は4センターが実施し、手数料は216,735円となりました。

年 度 別 シ ル バ ー 派 遣 事 業 実 績

年度別	会員数 (人)		就業延人員 (人)		受注件数 (件)		契約金額 (千円)	
		増加率 (%)		増加率 (%)		増加率 (%)		増加率 (%)
H29	6,789	31.5	450,041	28.8	4,280	32.5	2,250,040	31.0
H30	7,011	3.3	538,468	19.6	4,710	10.0	2,764,470	22.9
R1	7,397	5.5	594,829	10.5	5,372	14.1	3,178,469	15.0
R2	7,586	2.6	604,464	1.6	5,359	△0.2	3,208,666	1.0
R3	8,310	9.5	635,669	5.2	5,116	△4.5	3,355,122	4.6
R4	7,587	△8.7	636,029	0.1	5,330	4.2	3,433,222	2.3

⑨ 会員数 (人) は、派遣労働登録会員数である。

8. 関係行政機関・関係諸団体との連携

シルバー事業の円滑な事業運営を図るため、関係行政機関や事業主団体をはじめ、全シ協及び近畿シルバー人材センター連絡協議会、並びに各都道府県連合等との連携を図り、シルバー事業の発展・拡大に努めてきました。

9. 諸会議の開催

① 法人運営上の会議

定時総会（1回）、理事会（5回）

② 業務運営上の会議

幹事会（5回）、事務局長会議（3回）

③ 専門部会

普及啓発部会（1回）、技能開発部会（1回）、安全・適正就業部会（1回）

④ その他会議等

安全・適正就業推進員会議 1回

シルバー派遣事業・有料職業紹介事業運営委員会 4回

シルバー派遣事業実務担当者による課題検討会 1回

会計・経理実務担当者会議 1回

インボイス制度検討委員会 1回